

一般講演抄録

1 治療勧告に応じない小学校児童に対する個別対応型口腔保健活動と治療介入の効果
— プリシード・プロシードモデルを活用した学学連携による支援強化の試み —木暮ミカ, 本間和代¹明倫短期大学 歯科技工士学科, ¹歯科衛生士学科

keywords: プリシード・プロシードモデル, 学校歯科, 個別対応型口腔保健活動, 治療介入

はじめに

本学では、平成16年より真砂小学校の学校歯科医に就任したことを契機に、プリシード・プロシードモデルに基づき、効果的な集団歯科健診システムの構築を試みている。その結果、平成23年度の齲蝕所有者率は新潟市の平均が13.6%なのに対し真砂小は4.4%にまで減少し、「新潟県 よい歯の学校」優良校を受賞するなど、一定の効果が得られている。反面、治療勧告書に応じない児童が固定化しており、該当者はrampant caries（多発性齲蝕）の傾向が強いことから、学校と学校歯科医による積極的な治療介入を実施したところ、良好な結果が得られたので報告する。

対象および方法

1. 調査対象：新潟市立真砂小学校に在籍する全児童403名
2. 調査内容：永久歯齲蝕所有者率、永久歯一人平均齲蝕数、歯科治療勧告者率、治療終了者率（治療勧告対象者）の4項目
3. 調査方法：小学校定期健康診断結果
 - ①要治療者に対して、春季と秋季歯科健康診断の結果より、歯科治療勧告書を発行
 - ②H23年3月の時点で治療勧告に応じない未治療の児童13名に対し、学学連携による歯科治療の案内を送付した。その結果、治療を希望した8名に対し、本学診療所にて養護教員の引率による集団歯科治療を施行した。

結果および考察

真砂小学校は永久歯齲蝕所有者率、永久歯一人平均齲蝕数ともに減少傾向を示しており、新潟市の平均を遥かに下回っている。また、歯科治療勧告者率は治療介入後のH23年は前年度に比して20.1%と大幅に減少し

たが、治療終了者率は36.4%減少した。これは歯科治療勧告に従う意志のない者の絶対数自体に変動がないことと、H23年の新入生の口腔内状況が例年に比べ悪く、かつ保護者の口腔に対する認識が低いことに起因していると思われる。また、未治療者の学校生活および家庭環境を調査したところ、デンタルネグレクトの兆候が疑われるケースがあるため、今後は学学連携にとどまらず、虐待防止ネットワークとの連携も視野に入れた支援強化を検討する必要がある。

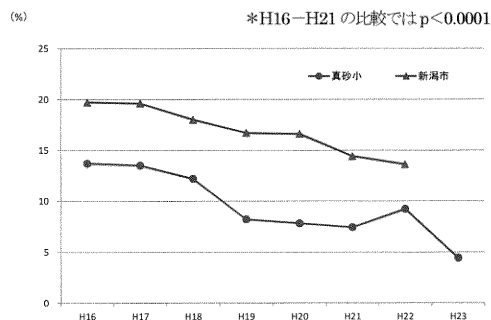


図1.永久歯齲蝕所有者率の推移

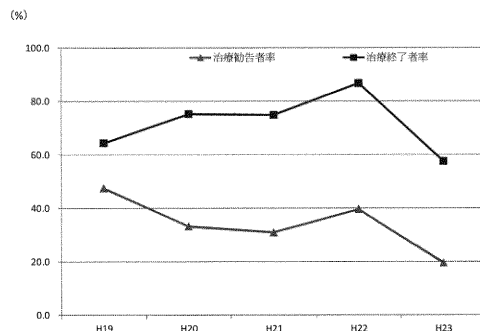


図2. 真砂小における治療勧告者率と治療終了者率の推移

参考文献

新潟市歯科保健年報, 2011